

稲作

地域で協力して仕上げの水管理
高温により早まる刈り取り適期への対応を

生育概況

7月24日現在、
草丈は78.3cm、
茎数は510本/m²、
葉色は40.6cm、
葉数は12.9葉
となっています。

今夏も高温で推移しています。生育ステージの前進に伴って、刈り取り適期も早まりそうです。機械の点検など早めに刈り取り準備を済ませておきましょう。

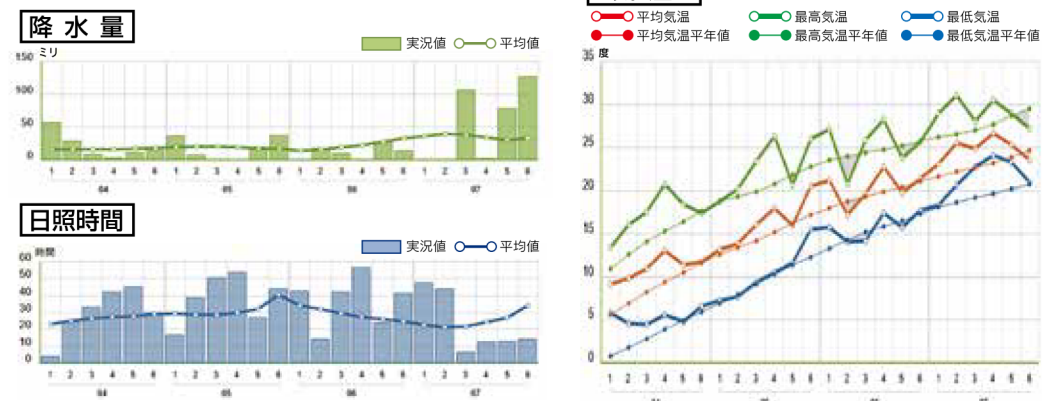
斑点米カメムシ類の発生量は多い予想です。薬剤防除と草刈りを確実に実施してください。

あきたこまちR定点調査結果(7/24)

仙北地域振興局農業振興普及課数値
あきたこまち10地点の平均

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	SPAD値	葉数(葉)
本年値	78.3	510	40.6	12.9葉
平年比	102%	109%	104%	+0.6葉
前年比	90%	117%	108%	+0.1葉

令和8年4～7月気象経過(大曲アメダス)



7/31時点 出穂期後積算気温による 刈り取り適期予想

出穂期		7/27		7/31		8/5	
アメダス 地点		大曲	角館	大曲	角館	大曲	角館
積算気温到達日 出穂期後	900℃	9/3	9/3	9/7	9/7	9/13	9/13
	950℃	9/5	9/5	9/9	9/10	9/15	9/16
	1,000℃	9/7	9/8	9/12	9/12	9/18	9/18
	1,050℃	9/10	9/10	9/14	9/15	9/21	9/21

※出穂期後積算気温は7/31までは実測値、以降は平年値で試算。

※高温で経過した場合、数日早まる可能性があります。

参考 出穂期後積算気温到達日(大曲アメダス)

年	出穂期	950℃到達日	1,050℃到達日
R7	7/31	9/4	9/11
R6	8/1	9/7	9/11
R5	7/31	9/3	9/7
R4	8/2	9/11	9/16
R3	7/31	9/8	9/13

こまめな水管理で
登熟促す

高温下で水深が浅い湛水状態にしていると、水がお湯になつてしまふほか、夜間もその熱が根に伝わつてしまい根の活力が低下し、登熟に悪影響を及ぼします。穂揃期から落水期までは、田面の湿润状態を保つ「飽水管理」とし、気化熱により地温上昇防止を図り、根の活力維持を図ります。そのほか、こまめな水の入れ替えや夜間入水等で地温が上がりすぎないようにしてください。フエーン現象による高温が予報されている場合は、その前日まで、予め5cm以上の湛水を行い、フエーン現象による水分ストレス軽減を図ります。

地域で協力して
水回しを

高温対策として用水の利用が多くなります。しかしながら、用水は限りある水資源です。かけ流しを控え、地域で協力し合い、水回しするようお願いします。

斑点米カメムシ類は 2回防除が基本

7月28日に秋田県病害虫防除所から「斑点米カメムシ類に関する注意報」が発表されました。特に水田内に出穂したノビエやホタルイなどが発生しているほ場や、出穂したイネ科雑草がある畦畔で多く発生していることから注意が必要です。カメムシ1回目防除後7日以内に農道畦畔の草刈りを行います。加えて今年は、出穂期24日後頃の2回目防除が重要です。近年は、斑点米による検査保留数が多くなっています。色彩選別機でも取り除ききれない事例も発生しているので、防除を確実に実施してください。

※本年は出穂期が早まっていますので防除時期が遅れないようにしてください。加えて、刈り取りが早まりそうですので、2回目防除で使用する薬剤の収穫前日数をご確認ください。

刈り取りの注意点

早生種(あきたこまちR、秋のきらめき)

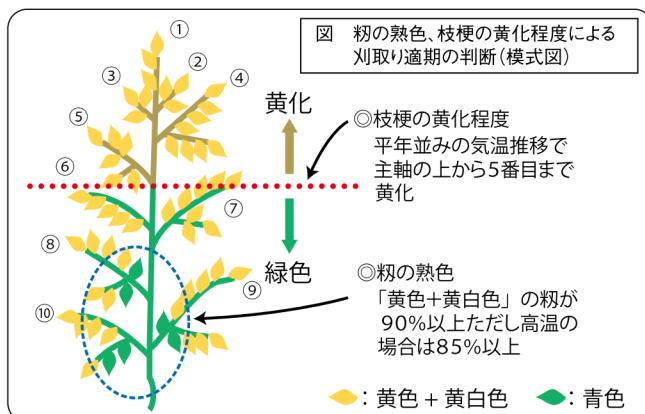
刈り取り開始 出穂期後40日～、積算気温900℃～
 刈り取り適期 出穂期後45日～、積算気温950～1,050℃
 ※積算気温1,100℃を超えると胴割れ粒が増加する。

中晩生種(サキホコレ、つぶぞろい、ゆめおぼこ、めんこいな、ひとめぼれ)

刈り取り開始 出穂期後45日頃～、積算気温1,000℃～
 刈り取り適期 出穂期後50日～、積算気温1,050～1,150℃
 ※積算気温1,200℃を超えると胴割れ粒が増加する。

生産管理シートの提出

生産管理シートには、本年産で
使用した肥料、農薬等を漏れなく
記載し、収穫前までにＪＡへ提出
してください。生産管理シート
は、安全な農作物生産の証明書
です。



粉の熟色は、通常年であれば葉
 や穂首が緑色であっても、粉の黄
 化程度が90%（黄白色＋黄色）の
 頃が適期となります。枝梗の黄化
 が5番目の枝梗まで進んだ頃と
 します。ただし、枝梗による判断
 は年次変動が大きく、高温年は胴
 割れ粒が増加することがあるので
 で注意しましょう。

高温登熟時の乾燥作業

「低温二段乾燥」で

丁寧に仕上げる

収穫した生籾は、水分が高いままコンテナや樹脂袋に保管すると7～8時間で変質する恐れがあります。速やかに乾燥作業に入りましょう。

一般に高温で火力乾燥すると食味が低下しやすくなります。これは、お米に含まれる脂肪の分解が始まって、貯蔵中の食味低下を招くためです。また、高水分籾ほど低温でゆっくり乾燥する必要があります。

乾燥機での乾燥は気温の高さや湿度によって、仕上がりが変わります。早生品種（あきたこまち、秋のきらめき）は胴割れが発生しやすいため、低温二段乾燥でゆっくりと乾燥させることが大切です。

また、青米混入の多少によって、仕上がり水分に変化があることも考慮します。加熱乾燥が終了してから、放冷中に乾燥が進んだり、戻ったりします。これは保管中の建物・乾燥機の特性などの影響もありますが、最も与える影響が大きいものは、乾燥籾に含まれている青米の混入率です。

コンタミ（異品種混入）対策
異品種混入は
JAS法違反です！

店頭で売られている玄米（精米）は生鮮食品に分類され、名称、原料玄米（産地・品種・産年・使用割合、内容量、精米時期、販売者の表示が必要となります。

製品に異品種が混入した場合はJAS法違反に問われます。特に複数品種を作付している生産者は刈取・乾燥・選別時は作業機械の清掃を徹底し、異品種の混入に細心の注意を払ってください。

●JA米要件

1. 品種が確認できた種子（または苗）により栽培した米穀種子更新100%とする（産米改良協会からの購入種子）。
2. 登録検査機関にて、検査を受けた米穀
3. 生産基準に基づき栽培され、栽培履歴記帳がなされた米穀

●集荷規格

1. 仕上げ水分目標値 14.5%
2. JA米の対象等級1～3等
3. 対象品種
あきたこまち、ゆめおぼこ、秋のきらめき、サキホコレ、めんこいな、ひとめぼれ、淡雪こまち、つばざろい、萌えみのり、ササニシキの10品種
4. 量目（紙袋）は皆掛重量30.5kg（定量フレコン）の正味重量は1,029kg（余マス含む）

胴割米に注意

胴割れは、玄米の内部に亀裂が生じる現象です。出穂直後の高温、刈り遅れ、高温乾燥や急速乾燥、不適切な貯蔵管理、精米時の温度などが主な原因です。刈り取り後の生籾は水分が高いため、乾燥機に張込後、すぐに乾燥したり、高い温度で乾燥したりすると胴割米が発生しやすくなります。乾燥は張込後2～3時間送風で循環し、ムラを解消してから、させた後、加温乾燥をしてください。

美味しさの決め手「低温二段乾燥」

乾燥開始

ゆっくり乾燥
(毎時乾減率 0.7～0.8%)

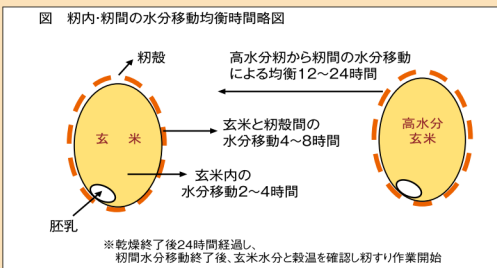
水分18%で乾燥を一旦中止

8～12時間火を止めて放置

仕上げ乾燥
(水分 14.5～15.0%)

完全に放冷した後に
調製作業を行う

ゆっくり乾燥させることで、水分ムラを少なくし、胴割れや過乾燥を防ぎ、省エネに繋がるうえ、食味が落ちるのを防ぐこともできます。



おばこの匠 実践事例

初摺り作業の注意点

初摺り機を水平に据え付け、主軸の回転数を確認の上で、ローの間隔を1回通して脱ぶ率80～85%になるように試し摺りして調節します。登熟不良で未熟粒が多い場合、無理にローの間隔を狭めてはいけません。ローの間隔は標準にして脱ぶ部に詰まりを生じない程度に籾の供給量を調節します。

米選作業の注意点

被害粒・死米・未熟粒などの不良粒をより多く除去して整粒歩合を高める最終作業です。高品質米に仕上げるために1.90mmの篩い目を推奨していますが、玄米流量を多くすると選別能率が低下しますので、能力に合わせた作業を行います。

農作業事故防止

春と秋は農作業事故が多くなります。改めて事故防止対策の再確認をしてください。

- ① 後進時はより慎重に運転しましょう
- ② 納屋等建物からの出入時には十分注意しましょう
- ③ 点検整備・清掃作業はエンジン停止状態で

安全作業チェック

機械の大きさや死角を把握している。	補助者と安全に関する話し合いをしている。	機械を動かすときには必ず補助者がいる。	周囲の安全確認をしている。	点検・整備時はエンジンを停止して作業している。	服装は体に合ったもの、農作業に相応しい物を着用している。	そで、えり、首に巻くタオル等が回転部分に巻き込まれないように注意する。
-------------------	----------------------	---------------------	---------------	-------------------------	------------------------------	-------------------------------------

稲刈り終わったらすぐに次年の準備を

ちよつと待った！
その秋耕起

稲刈りが終わったら、すぐに次年に向けてできる準備をしましょう。同時に、今年の生育を振り返って、反省点や改善点を洗い出して、栽培計画に活かしましょう。

お礼肥

今年の猛暑の中、頑張ってくれたほ場に感謝と次年への期待を込めて「ケイ酸」肥料を秋散布しましょう。秋に散布することで、作業分散にも繋がります。

基肥投入目安量



- けい酸加里 40kg/10a以上
- シリカ未来 60kg/10a以上
- 珪カル 100kg/10a以上

足りなければ入れよう
ケイ酸は補給できます！

稲わら腐熟促進

今年も問題になった異常還元（ワキ）の発生を抑えるためにも、秋のうちから稲わら腐熟を促進させましょう。腐熟促進剤は、散布後浅く耕起するほか、散布のみでも効果が期待できますので積極的に利用しましょう。



秋耕できるところ

- 排水がよく春耕起に支障がないほ場
- サブソイル等を実施し水の縦浸透が良好なほ場
- 10月中旬まで耕起し、生わらの腐熟が期待できるほ場

ポイント

稲刈り後、早い時期に行ってください。ワラの腐熟には温度が必要なので寒くなる前に終わるようにしましょう。秋耕は5～10cm程度の浅耕です。深く起す必要はありません。固く締まった田面をほぐしながら、ワラと稲株を混ぜるイメージで行います。

秋耕できないところ

- コンバイン跡が深く水が溜まっているようなほ場→秋耕で土を練ることによって異常還元が発生しやすくなる。
- 軟弱で浅耕（5～10cm）を保てない圃場→耕深が深いと土中酸素不足により有機物が分解されにくくなる。そして翌春に異常還元が発生しやすくなる。
- 暗渠がなく、排水不良田→春作業に毎年難儀し、土を練ることによって異常還元が発生しやすくなる。
- ノビエが繁殖し種子を落としたほ場→種子を土中に潜りこませることになり、長年の発生原因となる。

排水が悪く軟弱なほ場では、土を練ってしまうため、むしろ稲わら分解が進みづらくなってしまう。ノビエが繁殖したほ場では、土中にノビエ種子を潜り込ませることになり、長年の発生原因となります。こうしたほ場では、秋耕起はしてはいけません。へばんとす？やるべきことは、ほ場を乾かすことです。明渠などで田面停滞水の排水を促したり、サブソイルで水の縦浸透を向上させたりします。